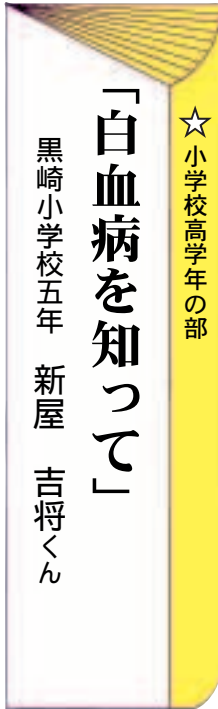


この本は、ゆかりちゃんという女の子が白血病になり、純君の家族が力になろうとすのお話でした。ぼくは、白血



ぼくは、本でみて、白血病という病気の名前を知ってました。この病気になるとかみの毛がぬけていくということも聞いたことがあります。でも、この本を読んでいくうちに白血病のことや、ドナーのことをもっとくわしく知ることができました。

たところですよ。純君は、ゆかりちゃんが白血病と知る前に、白血病のドキュメント番組を見ていたので、ドナーがいれば助かることを知って



「白血病を知って」

黒崎小学校五年 新屋 吉将くん

☆小学校高学年の部

やんでゆかりちゃんのドナーになろうと決心したのに、ゆかりちゃんに骨髄液が届くかどうかわからないことや、それ以前に年れいの問題で

病にかかった人には、ドナーが必要だということ、白血病は、骨髄の中の白血球がおかしくなる病気だということなどを知りました。ぼくが、一番すごいなあと思ったところは、小学生の純君が、友達になろうとゆかりちゃんのドナーになろうと思っ

たのです。でも、純君のお母さんの友達から、ドナーに登録できるのは、年れいが二十歳から五十歳までの健康な人だと聞きました。また、自分の骨髄液が、助けたい人に行くとはいえないということも聞きました。ぼくは、純君がせっかくな

ナーにはなれないことが、とても残念だと思いました。ぼくは、この本を読んでいくうちに、ドナーになった人も手術中にまずいによる医りようミスがあるかもしれないということを知ったので、ドナーになろうといったホウじいさんやお母さんは、人のために自分のできることを精いっぱいやりつづけてほしいと思いました。心が強いなあと思いました。ぼくは、この本を読んで命の大切さをとても感じました。普通の人突然病気と分かり、生きたいのに生きられないというの、本当にかわいそうなことだと思いました。だから今、ぼくが健康でいられるのは、幸せだなあと思いました。ぼくは、白血病にかかった

人をおかわいそうだと思うだけでなく、健康な人にもできることがあるということが分かりました。みんなドナーになり、純君のお父さんのように、年れい制限でなれない人でも、ネットワークを使って、ドナーの募集を呼びかけたりできるということですよ。ぼくは、はじめはドナーになつたら、その人も痛い思いをするのでいやだと思つていました。でも読み終わつてからよく考えてみると、白血病で死にそうになっている人を、自分の力で助けられるなら、ドナーになつてもいいかなあと思えるようになりました。ぼくは、まだ二十歳ではないので大人になつたらまた、よく考えてみたいと思つていました。||原文のまま|| (※吉将くんは現在六年に進級しています)



島山 雄奨くん (盛岡市桜台・8歳)



小中居 茜さん (堀内・10歳)



新屋 祐莉さん (中央区・9歳)



野崎 幸子さん (上区・62歳)



源田 晴菜さん (中央区・8歳)



佐藤 真子さん (上区・5歳)



二又 冴夏さん (白井・11歳)



砂川 綾香さん (堀内・7歳)

- ① A 2 B
- ◆応募総数：十八通で十六人の方が正解でした。抽選の結果、次の七人に図書券を送ります。
- ◆当選者：①島山彩愛さん(盛岡市・10歳) ②嘉村佳那恵さん(黒崎・6歳) ③落合涼香さん(中央区・9歳) ④せにぶくろあかねちゃん(上区・3歳) ⑤小中居茜さん(堀内・10歳) ⑥砂川綾香さん(堀内・7歳) ⑦榎谷美祈さん(茂市・5歳)